

組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

薬学部

部局長名：

檜垣和孝

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 ○教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上、女性教員や外国人教員など教員組織の多様性を含む)について ・60分4学期制の初年度となる実施体制の改善に向けた検証資源の収集に努める。 ・入試(入口)、教務・FD(実施)、国家試験・大学院入試・就職(出口)の横断的な共通理解に基づく方向付けと資源の共通化を図る。 ○教育方法・内容について ・全授業科目の試験問題および成績評価方法を収集し、授業内容の高質化に向けた評価・改善を行う。 ・学生の予復習のeラーニング化および教員の授業参観(ビュアレビュー)に資するべく、平成26年度から行っている授業撮像データの収集をさらに進める。 ○教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について ・薬学部教育にとってのアウトカム評価となる国家試験(薬学科)および大学院合格率(創薬化学科)の合格率の向上を図る。 ○学生支援について ・キャリアパスセミナー等を通じて、薬学系出身者が活躍する職場等についての理解を深める。 ○国際共同による教育の状況について ・前年度まで継続実施してきた学部学生の成均館大学薬学校(水原市、韓国)への英語授業体験的聴講のため短期派遣事業を正規授業科目として開講し、実施する。 ・台北医学大学薬学部(台北市、台湾)と学生(教育)交流に関する学部間協定の締結に向けて協議をすすめる。 ○外国人留学生の受入状況について ・前年度まで継続実施してきた学部学生の受入れを対象に薬学部の外国人短期研修生受入プログラム(International Exchange Program in Pharmaceutical Sciences)として整備し、修了証の発行をする。	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ○教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上、女性教員や外国人教員など教員組織の多様性を含む)について ・1学期終了後、いち早く全学年の学生を対象にアンケートを行い、60分4学期制の問題点について情報収集し、授業時間・場所等の変更等速やかに対処した。 ・入試(入口:入試データ)、教務・FD(実施:教務データ)、国家試験・大学院入試・就職(出口:就職データ)の横断的な共通理解に基づく方向付けと資源の共通化を図った。 ○教育方法・内容について ・全授業科目の試験問題および成績評価方法を収集し、授業内容の高質化に向けた評価・改善を行った。 ・学生の予復習のeラーニング化および教員の授業参観(ビュアレビュー)に資するべく、平成26年度から行っている授業撮像データの収集・周知をさらに進めた結果、本ページへのアクセス数は、211,249回を数えるに至った。さらに、撮像データは、教員の授業参観用のFD資料としても利用した。 ○教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について ・薬学部教育にとってのアウトカム評価となる国家試験(薬学科)および大学院(創薬科学科)合格率の向上を図った。 ○学生支援について ・キャリアパスセミナー・就職案内セミナーを計29回実施し、延べ418名の学部生および院生の出席があった。また、薬学セミナーの一環として、製薬メーカーおよびPMDAから講師を招聘し、それぞれ約160名の学生の参加があった。 ○国際共同による教育の状況について ・前年度まで継続実施してきた学部学生の成均館大学薬学校(水原市、韓国)への英語授業体験的聴講のため短期派遣事業を正規授業科目「国際連携薬学セミナー(0.5単位)」として開講し、実施した。 ・台北医学大学薬学部(台湾)との間で、学生(教育)交流に関する部局間協定を締結した。 ○外国人留学生の受入状況について ・成均館大学薬学校からキャンパスアジア・ナビコース(短期)受入プログラムに受け入れた9名(うち3名は大学院生)に対し、修了証を発行した。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ○三者(学生・同僚・自己)による授業評価結果からの検証と授業改善 ○シラバス(活用・記述例) ○国家試験合格率(薬学科)、就職率(創薬科学科・大学院)	①-2 大学全体への貢献 ・SGU創成支援事業に関連する取組として、8名の海外派遣(学部学生)を実施した。 ・SGU創成支援事業に関連する取組として、6名の海外からの受入プログラム(学部学生)を実施した。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 シラバスは1年次生用1学期2に配布している。別添資料あり 国家試験合格率(92.11%) 就職率 別添資料あり
②研究領域	自己評価
②-1 目標 「大学院医歯薬学総合研究科 薬学系」に記載	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	②-2 大学全体への貢献
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 ○地域社会との連携、社会貢献 一般社会人、薬剤師、高校生等を対象とした公開講座、公開講演会等の実施により、薬学および関連領域の科学の進歩について広く紹介する。 ○国際交流・協力 韓国・成均館大学をはじめとしたアジア各地の有力大学・研究機関等との持続的な連携・交流を進める。また、インド拠点での活動を継続的に展開する。 ○その他 地域の職能団体等と連携した卒前・卒後教育の実施を推進する。	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ○地域社会との連携、社会貢献 薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座、高校生及び一般を対象とした公開講演会を実施した。 ○国際交流・協力 ・成均館大学(韓国)への短期派遣・受入プログラムの継続とさらなる充実に向けた協議を始めた。 ・台北医学大学(台湾)との間で、部局間協定を締結し、研究・教育交流を推進することとなった。 ・インド拠点での活動をさらに進めた。 ○その他 県薬剤師会及び県病院薬剤師会の協力を得て、薬剤師生涯教育に資する特別講演会を1月に実施し、約30名の参加を得た。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ○公開講演会等の実施状況 ○地域貢献・国際貢献への協力の状況	③-2 大学全体への貢献 ・SGU創成支援事業に関連する取組として、8名の海外派遣(学部学生)を実施した。 ・SGU創成支援事業に関連する取組として、6名の海外からの受入プログラム(学部学生)を実施した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 ・別添資料あり
【総括記述欄】 教育、社会貢献領域、いずれも当初目標を良好に達成したものと評価している。来年度は、教育領域では、学生ケアの充実、大学院入試、国家試験合格率向上のための検討を開始する。また、引き続き、60分授業・4学期制における的確な教育実施を推進すると共に、教育の質の向上を目指す。国際交流については、韓国・成均館大学、台北医科大学(台湾)、ハイフォン医科大学(ベトナム)、ミャンマーFDA等との交流を更に深めて行く。社会貢献領域においては、公開講座による高校生、一般社会人、薬剤師に対する薬学に関する啓発を続けていくとともに、薬剤師教育協議会などの地域の職能団体等と連携した、卒前・卒後教育を実施していく。 研究面については、「大学院医歯薬学総合研究科 薬学系」に記載。	